

1 事業の成果

(1) 移送サービス(福祉有償運送)事業

和歌山市行政事業とのミスマッチで年度内実施が出来なかったが、当事業は、有功地区の交通事情から高齢者・障がい者の移動手段の確保上不可欠な事業であるため、一刻も早い事業実施のために引き続き行政との協議を深めていくが、いつでも実施できるよう、研修会の開催や運転手の確保など、体制づくりに取り組めたことは大きな成果があった。

(2) 友愛訪問活動

当初、有償で実施することへの抵抗があったが、徐々に周知され利用者が増えてくるに伴い、利用者の立場に立てば、低料金の有償の方が利用し易いことが理解出来てきた。口コミで徐々に利用者が増えていく中で、多種多様なニーズに対応するための提供会員の質と人員の確保が今後の大きな課題となっている。

(3) いきいきサロン新設・運営事業

年度新設目標の4か所は達成できなかったが、2か所が新設され、既設サロンとあわせ、9か所の運営となった。か所的にはまだまだ不足があるものの、それぞれのサロンでは、設置目的である高齢者や障がい者の「拠りどころ」「居場所」としての機能を充分果たし、延べ1,048名の参加者を得たことは大いに評価できる。今後も歩いて通える範囲に出来るだけ多くの設置を図っていききたい。

(4) 人材育成事業

有功地区住民の地域福祉に対する関心の高揚と、ボランティア・リーダーとして具体的活動に参画する人材養成のために第4期・第5期のボランティア・リーダー養成講座を開催したが、第4期では22名、第5期では17名の参加者を得、第1期からの受講者数は115名となり、地区住民の福祉意識の高揚とともに、具体的事業の推進者としての人材確保に大きな成果を見ることができ、当団体が5年計画で進める250名のリーダー確保への基礎作りとなった。

また、第1期から第4期のボランティア・リーダー養成講座受講者を対象に行った「地域福祉リーダー大学講座」では、既に種々の活動に中核的人材として活動している24名が参加し、さらなるスキルアップが図られた。

さらに、第2回和歌山市地域福祉ボランティア交流会を開催することにより、参加された多くの個人や団体の交流が図られ、相互の活動理解や連携・協力体制が生まれてきた。最近では、それぞれのグループが企画するイベント案内などが多く入るようになっている。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1. 福祉有償運送事業	移送サービス研修会(第1回)	6月30日	団体事務所	2人	役員7名	和歌山大学負担
	〃(第2回)	9月22日	団体事務所	2人	役員12名	和歌山大学負担
	福祉有償運送運転者講習会	11月15日 ～16日	大阪市社会福祉研修センター	参加	役員4名	57
2. 友愛訪問活動事業	友愛訪問活動研修会	6月28日	団体事務所	2人	提供会員21名	5
	友愛訪問活動	通年	対象者宅他	延98人	高齢者等22名	614

3. ふれあい いきいきサ ロン事業	いきいきサロン研修会	6月28日	団体事務所	2人	サロン運営者15名	0
	いきいきサロンの運営9か所(内新 設2か所)	通年	角サロン	延124人	高齢者等1,048名	180
	いきいきサロン交流会	1月17日	団体事務所	5人	サロン参加者16名	10
4. 福祉人材 育成事業	ボランティア・リーダー養成講座(第 4期)	7月3日 ~8月7日	団体事務所	5人	住民延べ110名	78
	ボランティア・リーダー養成講座(第 5期)	1月22日~ 2月19日	団体事務所	5人	住民延べ85名	79
	地域福祉リーダー大学講座	12月8日 ~14日	団体事務所	5人	住民延べ48名	46
	和歌山市地域福祉ボランティア交流 会	3月13日	和歌山市ふ れ愛センタ ー	5人	和歌山市内NPO 関係者等47名	53

(備考)

- 1 用紙の大きさは、日本工業規格A列4番とする。
- 2 (1)には特定非営利活動に係る事業、(2)にはその他の事業について区分を明らかにして記載する。
- 3 2の(1)については事業毎に定款の事業名、事業内容、実施日時、実施場所、従事者の人数、受益対象者の範囲及び人数並びに支出額をそれぞれ記載する。
- 4 2の(1)のうち「受益対象者の範囲及び人数」の欄には、具体的な受益対象者及び人数を記載する。
- 5 2の(2)については事業毎に定款の事業名、事業内容、実施日時、実施場所、従事者の人数及び支出額をそれぞれ記載する。定款上、「その他の事業」に関する事項を定めている場合は、当該事業年度に実施しなかった場合も「実施しなかった」旨を記載する。